

IASB スタッフ・ペーパー IFRS 第 9 号の対象を絞った改善（AP 11）

**本スタッフ・ペーパーの目的**

- IASB が IFRS 第 9 号のレビューを開始すべきか否かについて分析する。当該ペーパーについては、11 月 15 日の IASB 会議で検討された。

**背景**

- IASB の保険プロジェクトとの関係
- IASB と FASB のコンバージェンス
- 早期適用企業及び適用を準備している企業からのフィードバック

**スタッフの分析**

- IFRS 第 9 号の基本的な考え方  
IFRS 第 9 号の分類及び測定モデルは、健全な概念原則に基づいており、意思決定有用な情報を提供している。関係者からは、根本的な見直しは提起されていない。
- 保険契約プロジェクト  
IASB は、保険負債の表示の提案（割引率の変動の影響を分解して OCI に表示）と合わせて、一部の金融資産の再測定を純損益でなく OCI を通じて行うように再検討すべきとの要請を受けている。
- FASB とのコンバージェンス  
FASB の再審議によるモデルと IFRS 第 9 号のモデルに著しい違いがあるので、そうした違いに目を向けることが考えられる。
- 実務上の問題  
移行措置や、個別商品の分類に関する実務上の問題が提起されてきている（ただし、その多くは明確化）。
- 早期適用企業等の考慮  
すでに企業も準備に膨大な資源をつぎ込んできている。もし見直しを行うとしても、関係者のコストや混乱を最小限とするように努力すべき。
- 変更の時期  
IFRS 第 9 号の変更は、IFRS 第 9 号が（減損フェーズ、ヘッジフェーズとともに）全体として完成し、一緒に適用可能となるように迅速に取り組むべきである。

**スタッフ提案**

- IFRS 第 9 号の改善を検討することを提案。特に、保険契約プロジェクトとの相互作用を考慮することを目的とする。混乱を最小限とするように、対象を絞ったものとする。

**IASB 暫定決定**

- スタッフ提案どおり暫定決定された。

以上